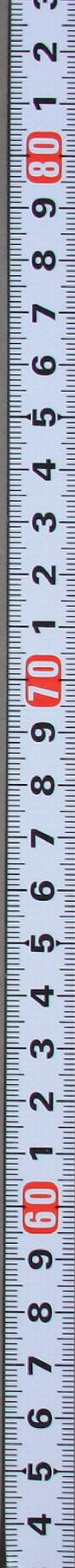




紫式部日記傍註

下



紫式部日記傍註下

石渠文庫

紫衣郎用肥旁主下

くら^試ん^散やう^米う^異は^異わ^異て^異せ^異ぬ^異は^異ら^異ん^異と^異づ^異ま^異お^異う^異
 も^憂路^憂へ^憂う^憂ら^憂ま^憂れ^憂—の^憂—^憂は^憂な^憂し^憂な^憂ら^憂あ^憂ら^憂と^憂。
 わ^炭う^櫃を^炭れ^櫃へ^炭あ^櫃う^炭—^炭や^炭も^炭ひ^炭。あ^炭う^炭な^炭ま^炭う^炭—^炭と^炭づ^炭い^炭あ^炭
 ま^炭う^炭ひ^炭と^炭あ^炭ひ^炭て^炭あ^炭ら^炭に^炭。あ^炭ひ^炭や^炭う^炭あ^炭。こ^炭あ^炭ア^炭な^炭と^炭
 と^炭。ま^炭ひ^炭に^炭は^炭お^炭て^炭。や^炭と^炭な^炭ら^炭へ^炭。ま^炭う^炭く^炭—^炭う^炭物^炭も^炭
 及^炭ゆ^炭う^炭と^炭あ^炭う^炭い^炭や^炭ふ^炭。殿^炭あ^炭う^炭—^炭ま^炭う^炭て^炭。あ^炭う^炭く^炭
 か^炭う^炭く^炭ま^炭う^炭—^炭て^炭い^炭あ^炭ら^炭。つ^炭こ^炭あ^炭—^炭も^炭に^炭—^炭と^炭あ^炭て^炭
 と^炭せ^炭ぬ^炭て^炭。ら^炭も^炭も^炭わ^炭う^炭と^炭ま^炭う^炭の^炭や^炭う^炭ら^炭。ま^炭ひ^炭娘^炭と^炭の^炭
 い^炭ふ^炭く^炭あ^炭—^炭う^炭ん^炭と^炭ん^炭あ^炭に^炭。れ^炭う^炭れ^炭う^炭の^炭ぞ^炭こ^炭ら^炭
 あ^炭—^炭う^炭て^炭。い^炭あ^炭う^炭あ^炭の^炭や^炭う^炭に^炭。も^炭う^炭わ^炭ふ^炭か^炭。あ^炭—^炭う^炭と^炭
 あ^炭う^炭と^炭せ^炭ぬ^炭こ^炭の^炭—^炭ら^炭れ^炭ま^炭ん^炭て^炭ら^炭。て^炭め^炭ま^炭ら^炭と^炭ま^炭の^炭

藤原近光

寐

れ^帽う^額—^帽と^額事^帽と^額か^帽ら^額。ま^帽の^額の^額—^帽も^額か^額う^額て^額ん^額。

童御覽并卯日記

う^童う^御て^覽い^并て^日あ^記う^童う^御—^覽ら^并う^日。も^記て^童あ^御—^覽け^并う^日ひ^記な^童と^御
 と^覽い^御に^覽う^并う^日と^記ぬ^童く^御は^覽な^并ん^日あ^記う^童—^覽う^御に^覽く^并
 か^童う^御か^覽ら^并ぬ^日—^童う^御。い^覽ら^并ん^日の^記日^童う^御—^覽の^并あ^日う^記ら^童
 と^御い^覽。ま^并う^日な^記う^童う^御わ^覽れ^并。ま^日う^記て^童う^御あ^覽う^并ん^日あ^記う^童。こ^御
 り^覽な^并い^日ゆ^記—^童う^御。あ^覽う^并こ^日な^記う^童う^御び^覽つ^并い^日て^記。ま^童う^御ふ^覽い^并。
 あ^童い^御な^覽う^并ひ^日ひ^記つ^童あ^御わ^覽て^并う^日い^記こ^童あ^御れ^覽。ま^并う^日こ^記う^童う^御
 わ^童て^御ぬ^覽う^并う^日ま^記う^童う^御さ^覽あ^并う^日も^記か^童—^御我^覽い^并こ^日れ^記
 り^童こ^御こ^覽う^并人^日う^記あ^童り^御ひ^覽て^并。う^日—^童て^御う^覽あ^并い^日あ^記れ^童い^御。
 ま^童や^御め^覽う^并う^日つ^記。た^童う^御う^覽う^并う^日け^記さ^童や^御う^覽め^并と^日ん^記い^童う^御と^覽。
 う^童め^御う^覽—^童人^御の^覽め^并ふ^日—^童ぬ^御—^童の^御ま^覽ら^并め^日と^記ん^童う^御

氣伶亮

北家日記傍註

三

行成卿

立

部

御

1

2

1

蓬

某

衛

友

七

1

2

0

2

9

7

11

100

日蔭の事詳
見後補

弘仁内裏式
中務省率侍從
内舍人大舍人等
各持桃弓草矢
陰陽寮陰陽師
齊郎執祭具方
相一人著假面
黄金四目其衣
朱白裳右執戈
左執楯振子共
人同著假布衣
朱袂額共入殿
庭列立云云

ハ。程いともさへひ異なりきり。ゆゑもあはれに祓ふ
まゝの成。ゆゑいともたれくしの志をうつす。おめー
くひわさうとて

サ。わつて世をめぐればいふにあらばよきもさへ

とさひりこつて。いふれあつていふいとさへく

ぬれい。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さげなすに。舟のほろそものかううてゆゑなり。

たふれく人かきれあふぬてあてうらぬよりの

かな。ゆゑい。さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さふい。さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

人のあはれさへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

ひとねり。さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

さへく。さあめつさふとさねはくひもすすてうら

東宮自節中計
癸丑月辰日

2

うらぬひうぬさ人がどく〜。にしくかよひのき。あゝあ
う衣。むくのゆんとあつてふぢはも〜かめいり。
いとあ〜きよかこあ〜も〜ひ〜うけりひ。も〜てあ
ぶいりてあ〜らう〜〜〜。あきたりたやとふ。
ゆ〜らゆ〜人のふい〜こまのにやひれ〜をなり。
太ゆるの君あ〜う〜やにひ〜う〜く〜さ〜り
人のあちうう〜〜きよは〜〜と〜肥
いともひ〜に。髪
つ〜ん〜か〜す〜す〜あ〜のぢ〜あ〜う〜に〜
さうやも〜らう〜〜良
あ〜ひ〜なり。せん。宣
のあ〜ぢ〜少
あ〜ひ〜なり。せん。宣
のあ〜ぢ〜少

そひて。う〜す〜は〜う〜ふ〜う〜に〜く〜ぢ〜う〜り
とあ〜う。一尺うりあ〜う〜く〜う〜う〜けは
さうもな〜あ〜な〜ら〜妙
てい〜れ〜〜さ〜も〜う〜う〜つ〜ひ〜さ〜ら
と。あ〜ゆ〜人〜か〜う〜そ〜あ〜め〜と〜あ〜は〜の〜う〜の〜
うもあ〜め。この次は人のうら成かす〜え〜せ。あ
ひ〜い〜不良
さ〜う〜う〜う〜う〜あ〜い〜う〜も〜か〜頑
ひ〜ゆ〜。宰相の君。水の三位は。あ〜ふ〜い〜や
だい〜ゆ〜め〜。廉
あ〜う〜う〜も〜こ〜て〜ゆ〜に〜あ〜く〜う〜ら〜は〜う〜ら〜く

あり。おとくそへ 飯上人 舟よりていかにさつとて
御堂 潜

御堂

河も。こたうのせんしれつ。おひさふ。やわけう。

池

橋

戸
池
白
櫓
也

白

地

とて。ふのたまはねり。あつゝあはれ。あ

多う得と。宰相の君ふりて。たまふおとと。

肉

外

うりごめうい。うちもこも木うははとがう。月おか

今

樣

可

1

今様

木下之津さく

うきなりん

三

藤原正光

藤原正光卿
大々心乃あましくまゝにさすふしあうそん

つまゝにや。あひやゝめてかゝるうゝろておゝ

客

う。又。も。と。み。う。ら。ろ。ん。も。こ。そ。ふ。じ。う。ぬ。あ。う。ら。密

あやたしとつゝひとひらと。うづもつてほろろや

三

大丈徐福文成誕生にけり
三十一
 三十一

蒹

海もやういふやうく見ゆ。汝乃う紀事とて云

當

吹

くゆえり笛あき吹せう。あづ月うみ風のきこひて

計

無

う心しぬる。ももあ^計いしもあ^無う^口たううなうなり。

源氏のお終へよりある。これのいふところ。さういふところ。

五

よくもつて死なうはいつにひぬえちえとよあうれづうと

そゝかたあふ

此のものをあつたては、
人のおもてする所、
しそふ

思ふに

へ
ふしちねりの成すれこのすれのそとにありん

めいぬーうてこころ。そいぬはゆふぬ。て成てく人あり
 こいけとれりあり。たそそ色せてうーう。つとめて
 水雞
 ひとすうくおふりやふあてくそまたのうらうはたふひつ
 有

寛弘六年十月四日一条院焼亡十九日行幸左大臣枇杷町。其十一月廿五日第三皇子誕生十二月廿六日中宮内
 大と一二月三日までまゐりてけいけい。つとこりなり。なほ目く
 まうのやせね。いそにふ上らうもまつた。清つ乃
 うこ。懐餅
 二間
 ね。やいぬのひー乃ふむひく。のいつて。勢てく
 まくせあなり。たすのやせね。うたえり。のなり。
 皇太后宮 東三條院
 大まののやせね。いそ。のけいけい。うらう。あひ宰相

例のもの
 あひく生気
 ぬ色あり生
 氣北よりあり
 緑色あり

膏藥千瘡
 万病膏也
 見延喜式

御藥
 生気より注上
 の君。いもの。あひか。いふい。あひ。さ
 命 婦
 つとま。やうふけ。うまつ。か。あけ。うら。うら。あ。いそ
 女官より。あやう。せ。う。うら。い。さ。わ。さ。り
 音 藥 注上
 たいやく。く。ま。い。の。い。も。なり。二日。あ。の。大。餐
 いと。ゆ。り。く。陳。内。客。あ。ん。ー。む。り。て。う。ら。う。ひ。て。例
 乃。い。あ。う。り。かん。う。ら。め。い。傳。大。納。言。右。大。將。中。ま。大。ま
 公任卿 隆家卿 行成卿 頼通卿 有 國卿
 正光卿 實成卿 源 頼定卿
 宰相。大。後。つ。た。き。清。盛。も。ん。宰相。ひ。ひ。く。わ。う。あ。つ。
 俊賢卿 注前 源 經房卿 長押
 源中納言。た。き。清。盛。右。宰相。中。の。あ。さ。の。あ。に。
 及上人の府乃上につとめたり。う。ま。う。う。い。て。ま。り。ね

紫云音用言律言

七

拾遺集卷六

壬生忠峯

子曰吾將

小松のさうと

千代のあは

仁心

陳氏邦已著述

壯

五十日

のほい^明うし。正月十日。と。読る。つる。ふ。こ。サ。お。の。君。あ。げ。い
 て。う。た。な。く。あ。り。う。る。う。ほ。り。お。り。ま。い。の。お。あ。
 お。よ。お。て。り。や。う。の。つ。り。の。と。ひ。り。は。あ。を。や。て。う。と。見。は
 う。と。う。ほ。な。と。む。む。と。ひ。は。ま。う。り。て。い。お。丁。と。う。と
 屋。と。そ。も。て。り。り。敷。う。と。う。と。ま。ね。う。み。は。あ。め。ん。も
 う。う。う。と。あ。し。う。に。く。と。れ。と。あ。れ。も。う。う。と。く
 ー。と。と。と。あ。き。し。く。や。と。て。り。ん。日。に。け。て。ま。う。の。ほ。う。
 か。の。お。い。ら。く。の。お。り。の。う。ら。た。あ。う。な。う。う。と。あ。
 例 摺 さい。れ。と。う。と。と。お。り。り。お。梅。より。え。と。柳。の。か。と。あ。
 と。の。と。り。め。お。と。う。め。う。と。き。れ。と。う。と。う。に。く。そ
 う。や。う。なり。う。人。と。と。十。七。人。う。ま。の。に。う。た。ま。う。り

西のりハ
 直衣ナリ小口
 紅ノ小口袴ナリ

う。う。と。お。れ。は。ま。う。あ。ひ。い。極^{徳子}三位。と。う。つ。ぐ。ん。う。に。い。
 こ。大。夫。式。部。う。ら。よ。い。こ。サ。お。い。帝^帝后^后御帳^{御帳}
 ニ。と。う。あ。う。お。と。う。ま。い。あ。と。目。れ。え。あ。ひ。て。ま。ま。と。あ。と
 ま。て。と。う。う。け。な。り。い。ま。な。り。う。い。い。な。残。う。こ。く。ら^{注上}
 とも。え。い。ま。い。の。も。れ。お。井。乃。い。そ。う。う。と。い。り。え。と。柳。
 山。吹。の。い。り。う。い。い。え。ひ。と。め。れ。お。り。も。の。い。り。柳。の。う。
 ち。ら。乃。い。う。う。ら。た。ゆ。と。と。え。と。め。つ。う。と。く。と。あ。う
 と。も。れ。う。あ。あ。い。い。い。ま。と。う。あ。し。い。の。お。く。に。や。と。う
 と。う。う。と。ま。う。て。な。う。と。中。う。と。れ。め。と。と。う。と。た。と。う
 と。い。丁。の。と。と。は。う。う。み。お。と。う。ぬ。よ。う。て。と。と。う。あ。と。う。う。う
 う。い。く。と。と。あ。と。い。ぬ。と。と。れ。と。ゆ。う。う。う。ふ。の。く^傍

海。右のねと日んやとねりあーなとすまやーねん。
大臣 和琴。
 雑禮
 まねねふ。めりーもそにいみーさあやまらねやね。
結 惜
 ーも。さう人の身さへひえゆーう。いさうさるさるのふええ。お
 ーのさあともそんえ侍ー

後附

寬弘七年十一月廿八日遷新造一条院 中宮同行啓

寬弘七年

左大臣藤道一

右大臣藤顯光

內大臣藤公季

左大臣

大納言藤道綱

傳

藤實資

右大臣
按察使

權大納言藤齊信

中納言

同 藤公任

皇太后宮大夫

權中納言源俊賢

治部卿中宮權大夫
十二月十七日正二位

中納言藤隆家

權中納言藤行成

皇太后宮權大夫
侍從

同 藤賴通

左衛門督
春宮權大夫

中納言藤時光

彈正尹

權中納言藤忠輔

兵部卿

參議藤有國

勘解由長官
三月十六日修理大夫

同 藤懷平

右衛門督
春宮大夫

同 藤兼隆

右中將

同 藤正光

大藏卿

同 源經房

左中將

同 藤實成

左兵衛督

同 源賴定

左中將藤公信

藏人從四位上
內藏頭

藤教通

從四位上
十一月廿八日從
中將加
十五

少將藤濟政

十一月廿五日
右中將

藤兼綱

從四位下

藤忠經

藏人正五位下
正月七日從四位下

藤定賴

二月十六日元右
十二月七日正四位下

源朝任

藏人從五位下
十月十五日轉任元右

右中將藤兼隆

藤賴宗

十月廿八日
正四位下

源濟政

十一月廿五日任

少將源雅通

二月廿日兼
木工頭

藤道雅

從四位下

藤好親

正月七日從五位上
左兵衛佐

藤定賴

從四位下

源朝任

二月十六日任元少納言
任右

藤經親

二月廿五日任
元左衛門佐

蓋聞斯書紫式部之所記也式部寬弘

三年之臘始官仕

中宮

後號上東
門院是也

若

其博覽俊才則固世所徧知也其官仕

之間見聞所及進退所經聊注錄以成

一書其雅趣藻詞實與源語相為伯仲

然此書本非日次之體而呼之日記者

未審姑且依舊題不輒改之其間難解

者畧標記傍注以便看讀門人谷村

光義

更撮取言五節舞姬之事者以附後而
與本書相發遂附之削闕以與于門下
之士云爾

享保己酉年黃鐘中澣壺井安鶴翁

後補

○大嘗會本朝月令五節舞者淨御原天皇之所
制也相傳曰天皇御吉野宮日暮彈琴有興俄
爾之間前岫之下雲氣忽起疑如高唐神女髣
髴應曲而舞獨入天瞻他人无見舉袖五變故
謂之五節其歌曰乎度綿度茂邑度綿左備須
茂可良多万乎多茂度邇麻岐底乎度綿左備
須茂光義按更
有本據在

○續日本紀聖武天皇天平十四年春正月丁未
朔壬戌十七天皇御大安殿宴群臣酒酣奏五節田

舞訖更令少年童女踏歌○同十五年五月癸卯宴群臣於內裏皇太子親儷五節云類聚國史嵯峨天皇弘仁五年十一月壬辰宴侍臣奏五節儷賜祿有差

○本朝文粹善相公清行十二箇條五節舞妓臣伏見朝家五節舞妓者太嘗會時五人即皆預叙位其後年年新嘗會時四人無預叙位之例由是至于太嘗會之時權貴之家競進其女以宛此妓尋常之年人皆辭遁可闕神事爰有新制令諸公卿及女御輪轉進之伏案故實弘仁承和

二代尤好內寵故遍令諸家擇進此妓即以爲選納之便也諸家僥倖天恩不顧糜費盡財破產競以貢進略

○雲圖抄裏書五節次第廿日舞姬等參入裝束畢後預藏人觸其由於貫首大歌參畢後可申歟藏人頭奏聞或令藏人奏次御出頭以下前行秉脂入大師局殿下同入給也公卿徘徊馬道邊隨所次舞姬等參所便宜或上薦下兩參入云入必無次第茵几帳各以具之薰爐持隨髮上相副參入半帖上敷茵茵前立几帳但立舞之之時撤件預藏人每度搔起束帶次大歌發歌几帳云云笛小歌和次舞畢退下六之位抱之次還御○寅日殿上

淵醉朗詠今樣三獻畢有亂舞次第同夜御前

試預藏人奉仕御裝束尅限大師參上預藏人

次舞姬依次參上或無次藏人頭於南殿西腋

户下禁察陪從闕人免入者髮上一人取几童

二人持薰爐自餘不參次殿上户右青瑣門閉

之不開次主殿官人自北廊列立庭中舉炬火

次大歌參上著座次發歌笛次舞畢内侍宣可

返御歌之由次藏人頭問大歌人御物忌之時

誰○卯日宴飲如昨日童御覽奉仕御裝束后

御所本宮大夫若親次御座定公卿候簀子敷

或賜圓座但次童女參御前雲客副之或召次

下仕參藏人副之各一所事畢次第退入夜行

幸中院其儀○辰日節會次第畢及三獻大歌

發歌笛先是舞姬參上候御後下小忌太盤之

後舞姬參上髮上闌於第三間列舞主殿女孺

四人秉燭照舞畢舞姬退下歌人退下次入御

類聚雜耍抄舞姬裝束○世日赤色唐衣一領

織物褂一領茜染打褂一領織地摺裳一腰茜

染三重袴一腰扇一枚鞋一足○寅日青色唐

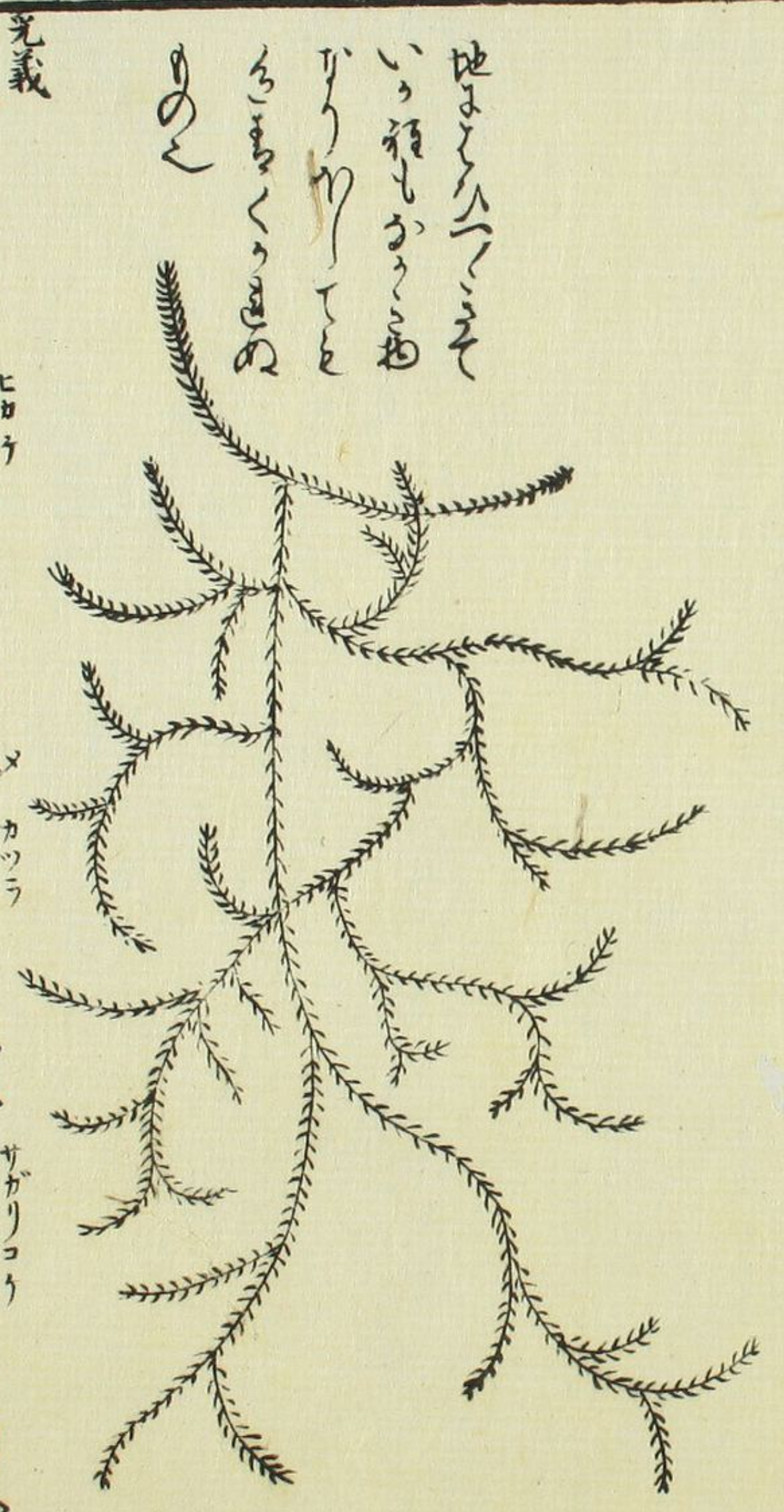
衣加襦藕芳木濃裳一腰茜染打褂一重同三

重袴一腰扇一枚錦鞋一足。○辰日陰髮赤
 紐青摺唐衣一領泥繪裳一腰茜染打柏一重
 同三重袴一腰扇一枚錦鞋一足○傳唐衣裳
 ○童汗衫柏單表袴下袴扇差櫛物忌_{紅薄}○
 下仕_{ミモ}褂打衣單唐衣裳袴○樋洗上_{スミ}雜仕等裝束略之

○神代卷_段磐戸猿女君遠祖天鈿女命以天香山之真坂樹爲髮以蘿_比爲手綱_略

○延喜四時奈式_{供新}日陰二荷_略

○和名抄苔類蘿唐韻云_{日本紀私記}

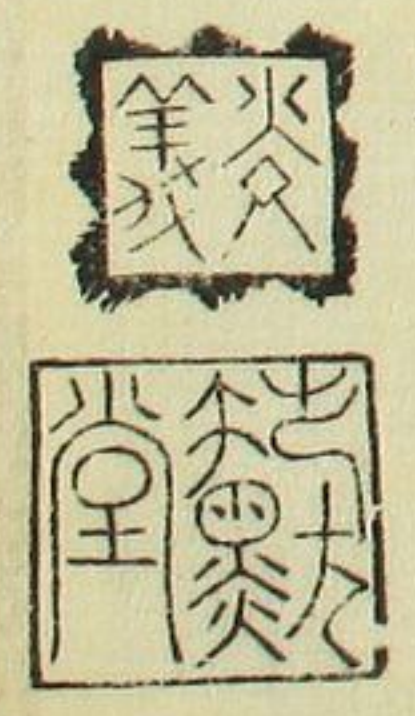


光義
 按日蔭_{ヒカウ}者蘿_メ又ハ女蘿_{カツラ}也或ハ下苔_{サカリコウ}と云ふなり
 俗名ハ狐乃_{イノノ}と云ふなり則我雄德山_{オホトクヤマ}めと
 多く_{オホク}なりと北山乃_{キタヤマノ}迄濕地_{シツチ}よと云ふなりこの

日け代神代ハ^{タスキ}ハ用ひ^スき^スり^スり
 延喜式ヨ日蔭二^タ荷^キとあふ^ス是^スか^スり^ス但後世^ニもて
 白糸^トより^シ合^スあ^スま^スた^スく^スみ^スく^スあ^スひ^ス結^ト
 い^ハ日蔭^ノろ^ろと名付^ク男ハ冠^ノた^タり
 八^ノ筋^ノ
組立一丈二尺計細
凡組ヨ^ハい^ハ組^トす
 月^ハい^ハ人^トあり^ス是^トハ葉^ノよ^ク冠^ノかん
 う^ハは^ハい^ハた^タか^カり^ス其^ハ葉^ノの^ハ梅^ノの^ハ結^ト
 花^ハ代^ハ枝^ハ付^スる^ス

一日侍^下干老師^下校^ス紫式部^下日記^下之^下席^下以^下其中^下
 有^下五^下節^下舞^下姬^下之^下事^下命^下
余録^下其^下可^下與^下之^下参^下考^下者^下
 故^下嘗^下膳^下寫^下所^下聞^下就^下而^下正^下焉^下則^下附^下之^下干卷^下末^下矣
 最^下不^下堪^下報^下愧^下
云
爾

享保十四己酉年臘月下弦
 石清水社士
 谷村光義



紫五音日言傳言 後和堂主鼎

九八終

官位裝束指掌圖

全部一冊出來
折本懷中本

書林

大阪心齋橋通南本町
河内屋儀助

48/7 HNW
27.2
7/10

